⑩　京都西山・大枝のアサギマダラ 2023・①

2023.03.22　コバノフジバカマが一斉に発芽した。

この春は寒い日があったとはいうものの、暖かい穏やかな日が続き、桜は平年よりも 2 週間も早く開花した。

千丈川を隔てて南側の尾根にかけてヤマザクラの巨木が 5 本あるが、それも里の桜に余り遅れずに開花し、見上げると遥か上の鉄塔のある尾根まで巨木が続いているのが確認された。

今年から仲間に入って下さった中村重行さんは、この正月に京北・余野から洛西ニュータウンに引っ越して来られたナチュラリストである。夏は涼しい余野や木祖の山小屋で過ごしたいと言っておられるが、いまは余野の野菜畑にフジバカマを植えて、秋の南下の季節のアサギマダラの休息所にしたいと、大枝から株分けしたコバノフジバカマ(園芸種で 9 月下旬から 10 月にかけて開花する)の植え付けに余念がない。標高が 460m と高いので不安はあるが、地球温暖化によりアサギマダラの移動する高度も高くなる可能性があるので結果を楽しみにしている。

洛西ニュータウンに早くから住んでおられる山口さんは、後記高齢者ではあるが、時々バイクでやって来てフジバカマ園の作業を手伝って下さるので助かっている。大変忙しい方で【京都市公認観光ガイド】【乙訓の自然を守る会の花ボランティア】と、特に春は忙しいそうである。

彼は梅津の日新電機に勤めていたそうであるが、その頃スキーに興じておられ、一級の資格を取られたそうな。私も二級に挑戦したことが有るが、山屋の私には性が合わなかったようで結局は挫折してしまった。

日新電機は住友グループであるが、弟がそこに勤務していたことも有って、八方尾根の住友黒菱小屋を何度か利用させてもらったことが有る。冬季の長野オリンピックの年に、小屋のすぐ下を通る練習用の滑降コースを滑らしてもらった快感は今でも忘れられない思い出である。

よく手伝って下さる奥田さんご夫妻にも感謝している。奥様は高齢者の長距離ランナーで、福知山マラソン・京都マラソンの他にも常連で知られているらしい。ご主人は同時に樫原の自宅を出られるのだが、随分遅れて到着なさる。高齢になると、体力を維持するただ一つの方法は毎日走る事なのだそうな。

養蜂家の村上さんは元大工で、小屋の修理や簡易トイレ作りなど助けて戴いた。その仲間の東さんは、養蜂家であるが雑魚捕りの名人でもある。私が少年のころ愛読した『釣りキチ三平』という漫画に出てくる伝説の漁師みたいな方で、日曜日にはこの近辺や、びわ湖周辺、日吉ダム周辺、保津峡などに置いたニホンミツバチの巣箱を見て回るのであるが、必ず郷里の和歌山で使い慣れた巻き網を携帯し、びわ湖では確か 60 匹捕まえたらそれ以上は捕らないで帰途に就くのだそうな。

私はそのような多くの方に助けられてアサギマダラの生態と、斜面上昇風の関係を調査しているが、その方たちの自然観も大変参考になっている。同じ話を何度も聴きながら、毎回同じ感動を覚えるというのも良いものだと思う所以である。　　(2023.04.06)